

# ロコモート 05

ズンダしほん4冊目  
敗北版面発行




18歳未満の方はご購入になれません



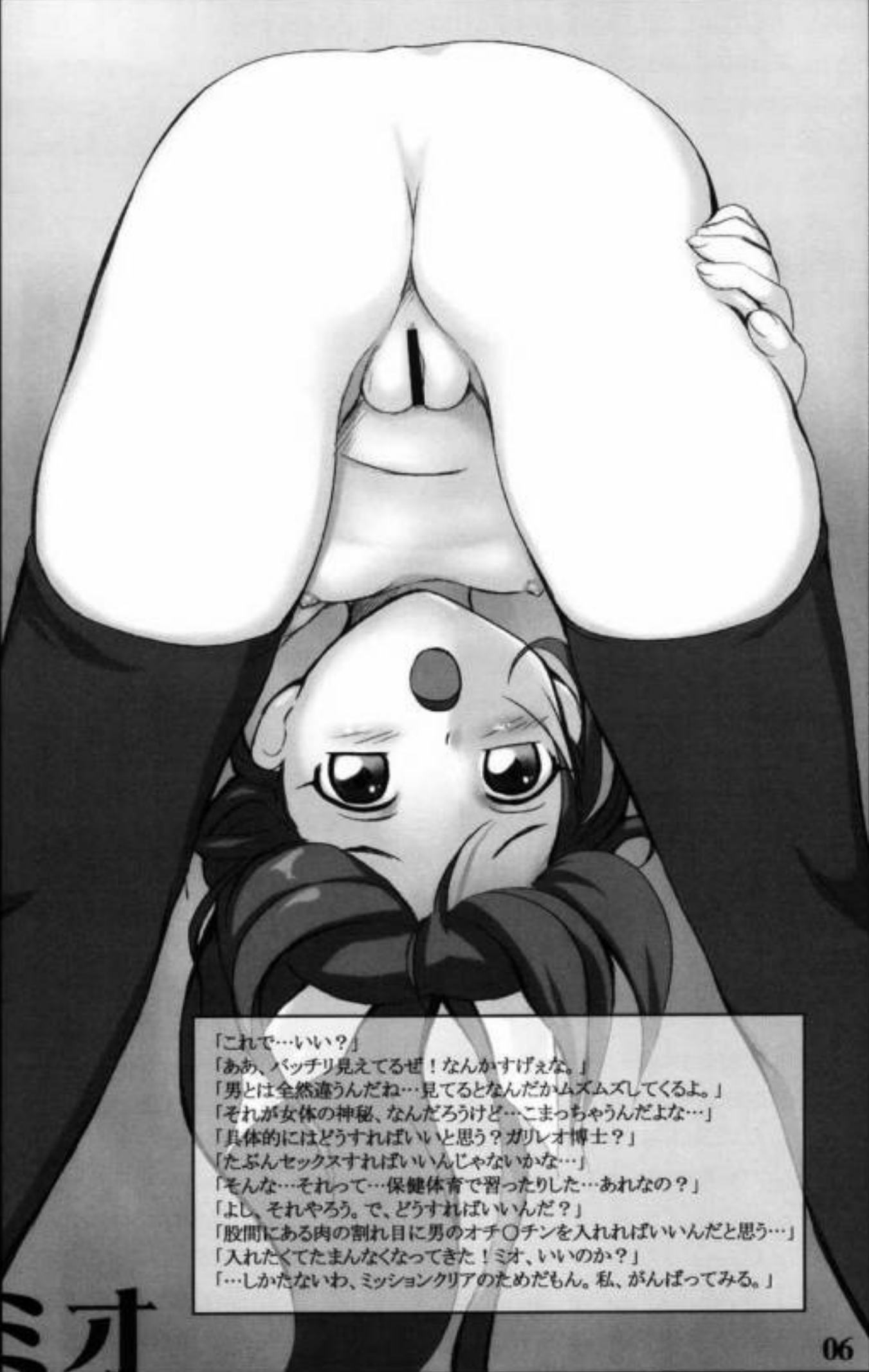
「なっ…なにをするの！放しなさいよ！」  
「がまんしてよズスカ。女の子はズスカ一人なんだから。」  
「女体の神秘には程遠い体つきだな…ガリレイ博士はどう思う？」  
「お、俺としてはコレはコレでそそると思うが。」  
「いやあー！ジロジロ見ないでえっ！」  
「オレとしてもギリギリ興奮するな…」  
「僕はズスカぐらいがかえってHだと思う…」  
「そうだな。特に真っ白いツルツルのワレメはポイント高いぞ。」  
「レ…見てんの上おっ！」

「体験せよ、つてことは、何すればいいんだ？」  
「それは…その…ユリイカ情報によると、オシベとメシベが…」  
「ようするにセックスすればいいんだ。」  
「うそお？みんな本気なの？」  
「やんなきゃ現実世界に帰れないんだ。仕方ないさ。」  
「ズスカと、セ…セックス出来るんだ…」  
「ウム。○学生とセックスというのなかなか良さそうだな。」  
「ヤダヤダ！せつたいヤダア〜〜〜！」



「たまらんな！幼い処女膣！搾り取られるぞ！」  
「うああっ！もう射精しないでえーっ！」  
「次、次僕だよ、早く替わって！」  
「これで三順目だな…気持ちよすぎてやめられない…」  
「もう死んじゃうっ…！出さないでー！」

「これで女体の神秘は体験済みと言っていいだろう。」  
「結果を残す…って？」  
「受精のことじゃないか？でもわかるまで時間かかるな…」  
「受精が確認されればユリイカストーンが出現して、わかるんじゃないか？」  
「ちょっと…冗談でしょ？そんなのひどい！ひどすぎるわ！」  
「しかたないよ…出来れば、僕の精子で妊娠してればいいなあ…」



「これで…いい？」  
「ああ、バッチリ見えてるぜ！なんかすげえな。」  
「男とは全然違うんだね…見てるとなんだかムズムズしてくるよ。」  
「それが女体の神秘、なんだろうけど…こまっちゃうんだよな…」  
「具体的にはどうすればいいと思う？ガリレオ博士？」  
「たぶんセックスすればいいんじゃないかな…」  
「そんな…それって…保健体育で習ったりした…あれなの？」  
「よし、それやろう。で、どうすればいいんだ？」  
「股間にある肉の割れ目に男のオチ○チンを入れればいいんだと思う…」  
「入れたくてたまんなくなってきた！ミオ、いいのか？」  
「…しかたないわ、ミッションクリアのためだもん。私、がんばってみる。」

「いたいっ！いたい！もっとゆっくり…きやう！」  
「こまっちゃうんだよなあ…腰の動きがとまらないんだなあ…」  
「ホントすごいぜ！こんな気持ちいいことがあったなんてさ。」  
「ぼく、腰がガクガクだけど、まだまだがんばれるよ。」  
「私はすっごくしたいの！それに…赤ちゃんできちゃうわ！」  
「こまっちゃうんだよなあ…妊娠しちゃうけど、また出ちゃうんだよなあ…」  
「やあ…や！熱い——っ！」

「たぶん、受精することがミッションクリアの条件だとおもうんだけど…」  
「今やったのでバッチリなんだろ？」  
「でもでも、これで妊娠したとは限らないんじゃない？」  
「みんな人事みたいに…もし本当にできちゃったら、どうするの？」  
「ミッションクリアだろ？」  
「バ、バカー！」  
「ユリイカストーンが現れないから、きっとまだ受精してないんだよ。」  
「おっし。じゃ、毎日やるか！」  
「そんなの、ダメー！」

# ロゼッタ

「おお！縮まった体してるなあ」  
「でもオナカとかオマ○コのお肉とか幼さが残っていて、  
ロゼッタタン…ハアハア…」  
「少女特有の色気がありますねーハイ。」  
「…はすかしいよお…ホントに…」  
効果あるのっ」

ギョギョ

ビクッ

ビクッ

「間違いないです。そらさんもレイラさんも幻の大技直前まで  
性的な特訓をしましたー特に体内に精液を注がれるのが  
効果的ですねーハイ。」  
「…それなら、我慢するけど…ぜったいそらら幻の大技を  
やるんだもんー」



「一週間溜め込んだ特濃の精子！全部飲みよ！」  
「ロゼッタのためにみんな我慢してきたんだよ〜。」  
「精子によってメスは発情し、運動能力が高まりますねーハイ。」  
「んっっ……にがくてドロドロして飲みきれないよおっっ……！」



やんっっ……おなかに入ってきたやう……

「全国のロゼッタの有志を募って、精液いっぱい集めたよ〜オマ○コの穴から直接子宮に注入しちゃうからね〜」  
「2リットルほど集まりましたねーゆっくり子宮に染みこませながら注ぐのが効果的です、ハイ。」  
「安心しろロゼッタ！処女を奪ったりはしないぜ！ロゼッタは神聖な幼女だからな！妊娠するかもしれないけど！」  
「！……やっ……妊娠イヤあああ！」

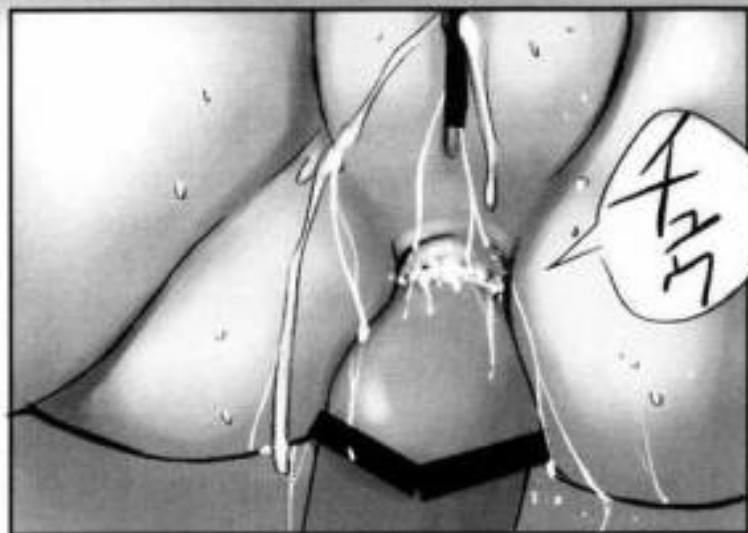
「うわぁ…出ちやうっ！」

「まああれだけ利尿剤入りのドリンクを  
飲んだんですからーハイ。」

「ロゼッタタンの黄金水…ハアハア」

「お願い、おトイレに…もれちやう、  
もれちやうのお…」

とまひなぐんぞお…  
お…お…お…



「我慢できねえ！尻の穴なら問題ないだろ！」

「反則だよ～～でも、次はボクも入れたいなア」

「な…何？…や、ウソっ…絶対ダメえ！」





「もうお尻許してっ！」  
「おらぁ！またアナルに中出し！」  
「お腹が張ってきましたねえ。おっと、また出る。」  
「ロゼッタ丹のちっちゃな手、最高だよ。」  
「おなか、はれつしちゃうよお…助けてっ…そら…」

「入念に精液を塗りこみましたから、これでパッチリです。」  
「ボクの精液の染みこんだロゼッタ丹…ハアハア」  
「あ、来週はまたロゼッタ丹の会から三人派遣されるからな！」  
「もうイヤあ！」



「こんなトコで…はずかしいよ…」  
「うるさい。生理現象だ。我慢しろ。」  
「……」



アイコ

「ん…あふれてきちゃう…」  
「まあ抜かずに三発だからな。」  
「ハジキ君…もう、学校も行かずに毎日…」  
「篠塚はいやなのか？」  
「ううん、そうじゃないけど…」



アラシ

万里香 さん



目的意識の欠けた集団をバカにしていた万里香だったが、その集団にイジメに遭ってしまふ。純潔こそ守っているが、毎日クラスの男子のほとんどに精飲を強要される日々……





リク  
さん




# メリ



「早く脱げよー仕方ないだろーあのキノコのせいであつちよつちもないんだからな。」  
「…解っている。ルナとシヤアラには手を出さないでくれ…」  
「くだいな！お前一人がボクら男三人を相手にすれば済むことさー！」  
「わかった…私が犠牲になろう。好きにするといー！」





「っ…すい…すい…さっさと腰を落とせ！」  
「無理を…言うな…経験が無いのだ…」  
「ボクだって実際には…うわっ！出る！」  
「ああっ…なんて…ことを…受胎してしまっ…」  
「知るかよ！まだ治まらない！腰を動かせ！」  
「焼けるように…熱い…これが性行為なのか…」



絵編が決まったので

# シーポン

ロコモート  
05

ロ  
コ  
モ  
ト  
05

ズンダしほん4冊目  
敗北版面発行



18歳未満の方はご購入になれません。